



2022年5月19日

各 位

長野県伊那市西箕輪 2148 番地 188  
株式会社イナリサーチ  
代表取締役社長 中川 賢司  
(コード番号: 2176 東証スタンダード)  
問い合わせ先: 執行役員 管理部門担当 野竹文彦  
電話番号 0265(72)6616

## 中期経営計画策定に関するお知らせ

当社ではこの度、新たに2022年度(2023年3月期)を初年度とする「中期経営計画(2022年度・2024年度)」(以下、「本中期経営計画」といいます。)を下記のとおり策定いたしましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 前中期経営計画の総括

「前中期経営計画(2019年度-2021年度)」の最終年度である2021年度(2022年3月期)の業績は売上高3,204百万円(前中期経営計画3,234百万円)、経常利益339百万円(同139百万円)、当期純利益334百万円(同119百万円)となり、売上高こそわずかに計画を下回ったものの、経常利益、当期純利益においては計画を大幅に上回りました。

前中期経営計画の3期を通じて収益が増加し、受注・受注残高も順調に積み上がっております。

また、SEND(注1)、海外展開、顧客層の拡大などの事業戦略が実を結び、経営基盤は着実に強化されたものと総括しております。

#### 2. 本中期経営計画基本方針

当社は「人類の永遠の平和共存を願い、生命科学の探求を通じて明日の医療を実現すると共に、地球環境の維持向上に貢献する」という経営理念(社是)を掲げ、医薬品、医療機器、農薬、化学物質、再生医療等製品の開発支援事業並びに環境事業に取り組んでおります。

近年の医薬品市場においては、抗体医薬品、核酸医薬品、再生医療、遺伝子療法といったバイオ医薬品(注2)の技術が広がりつつあり、創薬モダリティ(注3)が多様化しております。

国内においては、医療費圧縮政策により、大手製薬各社はがん、中枢薬、希少疾患等の高額な薬価が見込まれるターゲット領域への集中化や、非臨床試験を含む研究関連業務の外注化による経営資源の集中化を更に進めるとともに、積極的にグローバル市場に進出しております。

併せて経産省による創薬ベンチャー支援が決定し、今後は国内の創薬ベンチャー企業の動きも活性化すると予想しております。

また、アジア圏においては、各国の創薬力育成強化政策を受け、医薬品開発の需要は総じて拡大しており、当面はこの状況が続くものと予想しております。

昨今はエネルギー費上昇に伴うランニングコストの増大や飼料・大動物等の試験資材の高騰への対応が課題となっておりますが、上記のような良好な市場の状況から吸収できると見込んでおります。

ただし、今後のロシア・ウクライナ情勢や原材料の需給バランス次第では、さらなるエネルギーや試験資材の供給不安定化のリスクもあり、注視が必要です。

以上のような事業環境において、当社の取り組むべき課題は以下であるものと認識しています。

#### (1) 海外市場のさらなる開拓と国内ベンチャー支援強化による事業拡大

国内の既存顧客との関係を堅持しつつ、創薬ベンチャーへのサポートを強化するとともに、グローバル市場でのプレゼンスを高め、国内外のバランスの取れた事業成長に取り組めます。

併せて事業提携先との関係強化を図り、充実したサービス網の構築を目指します。

(2) 信頼性の遵守、サービスの向上、改善活動の継続

これらはどの時代もどの様な環境下にあっても、当社事業の根幹を成す永遠の課題です。

外部環境の変化にも囚われる事なく、経営方針、教育活動、日々のコミュニケーション、改善活動などあらゆる事業活動を通じて維持向上に取り組みます。

(3) 自動化、省力化を進め、生産性向上と従業員満足度向上を両立する会社へ

非臨床事業の特徴として、労働集約的な業務が多く、かつ年間を通じて常に施設を稼働させる必要がありますが、自動化やシステム化が可能な業務を切り出し、積極的に設備投資による効率化を進めることで、安定的な品質の確保と、生産性向上、従業員にとってより働きやすい企業となることの両立を図って参ります。

(4) 遺伝子治療薬試験で業界有数の存在に

長年良好な関係を培ってきたアカデミアとともに、前期に完成した遺伝子治療研究施設を積極的に活用し、遺伝子治療薬・治療法の分野で傑出した存在となるべく、注力いたします。

(5) DX 事業推進

既に競争優位を確立している SEND 事業に加えて、デジタルトランスフォーメーション分野における新たなビジネスシーズの創出に取り組みます。

(6) エネルギー及び試験資材の安定確保

国際情勢の流動化や中国等医薬品開発新興国の試験資材需要増大等により、調達ルートと価格がより安定したエネルギーや試験資材の確保は喫緊の課題となっております。SDGs 対策ともなり得る一部代替エネルギーの自力確保や大動物のより安定した調達ルート確立に鋭意取り組んでまいります。

4. 数値目標

(単位：百万円)

	2021 年度 実績	2022 年度 予想	2023 年度 目標	2024 年度 目標
売上高	3,204	4,328	4,871	5,261
経常利益	339	350	463	497
売上高経常利益率(%)	10.6%	8.0%	9.5%	9.4%
当期純利益	334	298	393	422
売上高当期純利益率(%)	10.4%	6.8%	8.0%	8.0%
1 株当り当期純利益 (円)	111.65 円	99.37 円	131.05 円	140.72 円

※1 株当り当期純利益は 2022 年 3 月 31 日現在の発行済株式数で算出しております。

【本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、現在当社が入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。今後の様々な要因により、実際の業績等は、本資料の記載内容と異なる結果となる可能性があることをご留意ください。】

用語の説明

(注1) SEND(Standard for Exchange of Nonclinical Data)

米国食品医薬品局 (FDA) への新薬申請時に義務化されている非臨床試験データ標準フォーマット

(注2) バイオ医薬品

バイオテクノロジーを用いて製造されるタンパク質を有効成分とした高分子の医薬品

(注3) 創薬モダリティ

医薬品の創薬基盤技術の方法・手段の分類

以 上